

水害と大規模な地震・津波災害に備えるため、日ごろからの準備が急務であり、町内全域として、また各地域としてどのような取り組みでいけばよいか調査研究を行うことを、これまでと同様な設置目的として、今後の方針について協議を行った。

「災害は忘れたころにやってくる」と言われていたが、今や「災害は毎年やって来る」と言っても過言ではない。自助・互助の立場から実効性のある自主防災組織率の向上、また結成されている地域では活動状況等改めて研鑽し、風化することなく訓練等実施して行けるように本委員会も啓発する。

その一環として今後の議会広報においては本委員会より「防災コーナー」を設け、「自分たちの命は自分たちで守る」を教訓に災害時に備えて情報の提供と啓発に努める。

日本は世界の火山の一割を占めており、近年の活動状況は活発で日本列島全体が常に不安と隣り合わせの現状である。

災害は地震・津波のみを想定

したものではなく、突風・局所的集中豪雨等身近に感じる災害もある。全国のどこで起きてもおかしくない異常気象の中、本町は運よく免れているような現状である。不安をおおるのではなく、災害発生時に落ち着いて着実に行動が取れるように準備しておくことが、今できる課題と痛感している。

そうした観点から、議会としても有事の際は、町災害対策本部と連携し災害活動を支援、協力するとともに、議員自らが迅速かつ適切な対応が図れるよう議会災害対策要綱等の作成について調査研究する。



防災対策特別委員会

防災コーナー

自主防災組織の設立を！

去る6月24日、自主防災組織リーダー研修会が、町内の自主防災組織54団体の代表者や議員が参加し、山口県大島防災センターで開催された。

当日は非常食体験後、「地域における自主防災活動の進め方について」と題し、山口大学大学院の瀧本浩一准教授の講義があり、自主防災組織の活動事例や必要性についての具体的なお話があった。

続いて演習を行い、参加者の皆さんが地域で災害に遭遇したときの対応（イメージ）について避難場所等を図面上に記入し、実際に災害が発生した場合、素早く対応できるよう災害図上訓練を実施した。

この度学んだことが、今後もしも大災害が起きたときに、災害図上訓練が活かされ、一人の犠牲者も出ないよう、また減災に役立てばよいと思う



▲ 災害時、地上図で避難訓練する参加者

た。

阪神淡路大震災において、隣近所の方々によって多くの人命が救出されている。大災害時には、自主防災組織の果たす役割は大きなものがある。

まだ自主防災組織を結成されていない地域の皆さんは、早く結成され、実効性のある自主防災組織率の向上を皆さんで目指していこう。

（吉田 芳春）